

## 今年度入試動向分析② ～旺文社『蛍雪時代・2018年11月号』から～

27号の続きです。関東・甲信越以外は、各教室あるいは進路資料室で見られます。

### 【関東・甲信越】<国公立大>

#### ●横浜市立大

国際総合科学を、国際教養・国際商・理の3学部に分割・改組（国際教養学系・国際都市学系、経営科学系、理学系を移行）。一般入試は前期のみ募集（国際教養【前】160人・国際商【前】190人・理【前】70人）。目指す学部・学科がわかりやすくなるため、人気を集めそうだ。

一方、データサイエンス【後】は2段階選抜の新規実施（予告倍率＝約20倍）が敬遠材料となり、やや志願者減か。

#### ●都留文科大

18年は「教養学部」を増設しながら、全学で志願者24%減。その反動から、教養【前】【中】・文【前】【中】とも志願者増が見込まれる。

#### ●公立諏訪東京理科大

18年4月から「私立→公立」に移行、19年から前期・中期に新規参入（18年は、私立大として別日程実施）。前期B方式は「セ試＝3教科4科目、2次＝数学・物理」、中期は「セ試＝3教科4科目、2次＝数学」と私立理系型のため、私大専願型の受験生も取り込み、多くの志願者を集めそうだ。

#### ●長野大

社会福祉で募集人員を「前期→中期」に移行（【前】50人→45人、【中】25人→30人）。また、全学の中期で岡山会場を増設する。社会福祉【中】・環境ツーリズム【中】・企業情報【中】の志願者増、社会福祉【前】の志願者減が見込まれる。

#### ●長野県立大

グローバルマネジメントで募集人員を「中期→前期」に移行（【前】70人→80人、【中】60人→45人）し、中期でセ試を4教科4(5)科目→3教科3(4)科目に軽減。前・中期とも志願者増が見込まれ、中期は難化しそう。一方、健康発達【中】は前年の高倍率の反動で志願者減が見込まれる。

### <私立大>

国立大の後期縮小により、国公立大志望者が就職好調な首都圏の難関～中堅上位校の併願を増やすものとみられるが、いずれも定員超過率が厳しく抑制されたまま固定され、合格者絞り込みによる難化が想定される。特に、東京23区内に立地する大学では、原則として10年間は新增設や定員増を申請できないため、合格者抑制で軒並み難化が予想される。

19年は新增設や定員増、新方式の実施などが前年より少なく、「波静かな入試」といわれる。このため、国公立と同様、前年の倍率の極端な変化が、反動となって現れる可能性がある。18年に合格者の絞り込みが顕著だった、学習院大（志願者11%増に対し合格者12%減）、上智大（志願者7%増に対し合格者16%減）、成城大（志願者27%増に対し合格者20%減）、法政大（志願者3%増に対し合格者17%減）は、警戒される可能性がある。一方、合格者増の工学院大（志願者9%増に対し合格者4%増）、國學院大（志願者1%減に対し合格者3%増）は志願者増が見込まれる。この他、中央大の2学部増設も人気材料として注目される。

#### ●青山学院大

「コミュニティ人間科学部」を、相模原キャンパス（神奈川県相模原市）に開設する。文（英米文）の個別学部日程C方式で、出願資格の英語外部検定（TEAP）のスコアを、新たに得点換算化する。一方、経済の個別学部日程B方式で、英語外部検定利用と国語を廃止、「大学独自の英語と数学の2科目」に変更し、募集人員を増加する（15人→45人）。

#### ●大東文化大

出願締切日がセ試本試験日の前か後かによって、全学部のセ試利用前期を「前出願型・後出願型」に分割。後出願型は新規実施で、3・4教科型の2タイプに複線化する（ただし、経営は3教科型、社会は4教科型のみ実施）。

#### ●中央大

国際経営・国際情報の2学部を新設（国際経営＝東京都八王子市、国際情報＝同新宿区）。

●東海大 文系・理系学部一括入試で、英語外部検定利用が可能に（得点換算）。

#### ●東京電機大

工2部以外の4学部で「一般入試（英語外部試験利用）」を新規実施。工の一般入試（前期・後期・英語外部試験利用）で数学満点選抜方式（数学が満点の場合は合格とする）を導入する。

#### ●東京都市大

知識工を「4→3学科」に再編し、定員減（295人→240人）。一方、工を定員増（725人→780人）。全学統一入試を廃止し、全学部で一般中期とセ試後期3教科グループディスカッション型を新規実施する。

#### ●日本大

学部共通入試のN方式1期で、高崎・湘南の2会場を増設。経済の一般A方式1・2期で、英語外部検定利用が可能に（得点換算。学部独自の英語と高得点の方を利用）。生物資源科学で学外試験場を「A方式1期＝6→16、同2期＝1→16」に増設し、3学科（森林資源科学・生物環境工・国際地域開発）でN方式2期を新規実施。文理（英文）でセ試C方式2期を新規実施する。

#### ●日本女子大

人間社会で「英語外部試験利用型一般入試」を新規実施。一般入試と同日実施で同時併願可（出願資格。英語以外の2科目で判定）。また、家政（児童）のセ試前期を4→3教科に軽減する。

#### ●明治大

経営・国際日本・農・総合数理の全学部統一入試で、英語外部検定利用（4技能）が可能に（得点換算。総合数理は4科目方式）。

#### ●立教大

全学部（文・ドイツ文学を除く）のセ試利用入試で6科目型を新規実施し、4科目型を廃止。ただし、理は従来の4教科型（6科目）を名称変更。

●早稲田大 教育で指定校推薦の導入に伴い、一般入試の募集人員を削減（700人→560人）する。

その他： 獨協大-外国語・国際教養・法でC方式セ試併用型（独自・セ試併用）を導入。工学院大は全学部で、一般A日程と同時期に「英語外部試験利用入試」を新規実施（出願資格）。聖路加国際大-看護でセ試利用入試を新規実施し、一般A方式を3→2科目に軽減。玉川大の全8学部で「英語外部試験スコア利用入試」を新規実施。法政大-文・デザイン工で「英語外部試験利用入試」を導入。武蔵野大で「データサイエンス学部」を増設。